

鹿児島の動物47

奄美大島のファイリマンゲース

動物担当 池 俊人



奄美大島の希少動物とファイリマンゲースの展示

この写真は、2018年4月に本館3階に設置された展示です。奄美大島の森林を模したジオラマ内には、アマミノクロウサギやアマミトゲネズミ、ケナガネズミ、アマミヤマシギ、アマミイシカワガエル、アマミハナサキガエルなどの希少動物とともに、外来種ファイリマンゲースが展示されています。奄美大島にマンゲースが移入・定着したことで、一体何が起こったのでしょうか。

マンゲース移入後に起こったこと

1979年に奄美大島に放されたマンゲースは、在来種である上記の在来動物を捕食



ジオラマ内のファイリマンゲース剥製

して、一時は島内で1万頭以上にも増えたと考えられています。それとともに、在来動物の生息数や分布域は減少して、絶滅のおそれが高まってしまったのです。

マンゲースの完全排除に向けて

奄美大島を本来の生態系に戻すために、国は2000年からマンゲースの本格的な駆除に乗り出しました。その



マンゲースを捕獲するために仕掛けられたトラップ(わな)

結果、マンゲースの数は減少して生息域も年々小さくなり、今では島内にすむのは百頭以下と推定されています。

また、マンゲースの減少とともに、アマミノクロウサギなどの在来動物の数が増えて、生息地も広がってきたことが確かめられています。近い将来、マンゲースの完全排除が実現することが期待されています。

ノネコ問題

マンゲースに代わって大きな問題となっているのが、ノネコやノイヌです。ペットとして飼われていた猫や犬が捨てられて野生化し、やはり在来動物を捕食してしまうのです。ノネコの供給源となる野良ネコへの不妊去勢手術やノネコの捕獲などの取組が、既に始められています。

アマミノクロウサギを捕らえたノネコ
(提供：環境省那覇自然環境事務所)

マンゲースやノネコの他にも、鹿児島県内では多数の外来種が定着して、生態系に様々な悪影響を起こす例が増えています。マンゲースの例でも分かるように、一度定着した外来種を排除するには多大な時間と労力が必要なので、未然に移入を防ぐことが大切です。